

第2部 計画の目指すもの

第1章 望ましい環境像

みんなで作る持続可能で快適な生活環境都市

「第一次江南市環境基本計画」(以下、「第一次計画」という。)では、「ひと・まち・自然にやさしさと責任をもち 先駆ける生活環境創造都市」を環境像とし、私たち一人ひとりが、ひと・まち・自然にやさしさと責任を持つことを自覚し、うるおいやゆとりのある快適なまちづくりや環境負荷の少ない生活様式・事業活動を実践することで、他に先駆けた生活環境創造都市の実現を目指しました。

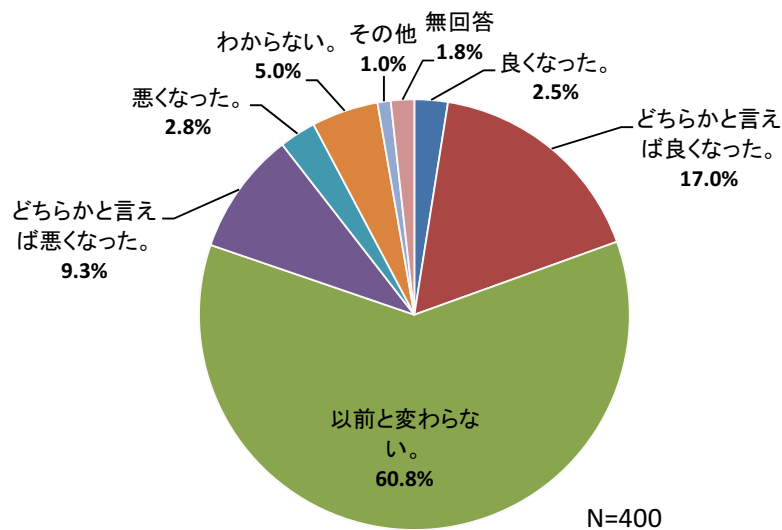
しかし、市民意識調査では、現在の市の環境を5年前に比べると、「以前と変わらない」が最も多くなっていました(60.8%)。「良くなった」、「どちらかと言えば良くなった」の合計は19.5%で、「以前と変わらない」の1/3です。一方、「悪くなった」、「どちらかと言えば悪くなった」とする回答を合計すると12.1%であることから、江南市の環境は悪くなっていると感じる市民の割合は少ないものの、第一次計画の成果が現れにくかったことが伺えます。現在の環境については、満足度が低く重要度の高いものとして、ごみのポイ捨てなどのマナーに関するものや、歩道や災害対策などインフラ整備に関するものが多くあげられています。インフラ整備はすぐにすべて着手できるものではありませんが、マナーに関しては、一人ひとりの心がけですぐに効果が現れるものであるにも関わらず、前回調査と同様に満足できる状況にありません。また、自然との触れ合いに関しては、満足度・重要度ともに低く、関心が低いことが伺えます。

ベッドタウンとして発展してきた本市において、市民の関心は、身近な生活空間が安心して快適に過ごすことができ、かつ安全に暮らすことができることに向いていると考えられます。市民による現状の評価は高くはありませんでしたが、市内で大きな環境問題は発生していないことから、市民、事業者がマナーに気をつければ、快適な生活環境都市へ一歩ずつ近づいていくことができます。また、その快適な環境を持続するには、地球温暖化のような大きな問題に対しても、一人ひとりが小さな努力を積み重ねていくことが必要です。加えて今後は、温暖化による急激な気候変動へ対応することが求められています。それは、今日の世代が快適さを求めるあまり、将来の世代の環境を損なってしまうことがないよう、持続可能なしくみでなければなりません。

さらに、本計画の上位計画である江南市戦略計画(平成19年度策定)では、本市が目指すべき地域社会のしくみを、「だれもが主役、みんなで作る、みんなの郷土」と掲げ、地域みんなが力を合わせて、地域の満足度を高めていくまちづくりが進められています。

本計画の生活環境都市を実現するには、私たち一人ひとりの力が重要です。そこで、望ましい環境像を引き続き、「みんなで作る持続可能で快適な生活環境都市」とし、一人ひとりが地域の主役となって、快適な生活環境都市をつくり上げることを目指します。

▼市民意識調査結果 本市の環境について(5年前との比較)



現在の市の環境を5年前と比べると、「以前と変わらない」という回答が最も多くなっています。

次いで「どちらかと言えば良くなった」で、「良くなった」と合わせても、「以前と変わらない」が最も多い回答です。

「(どちらかと言えば)悪くなった」は「(どちらかと言えば)良くなった」と比べると、小さい割合となっています。

▼平成27年3月に尾北自然歩道の改修工事が完了しました。



▼毎年秋に開催される「環境フェスタ江南」では、各種環境団体の活動や市民及び市内の小・中学校、保育園が取り組んだ緑のカーテン、環境ポスター、リサイクル作品等を紹介しています。



▼平成 25 年 10 月から環境学習アドバイザーによる環境学習講座が始まりました。



第2章 環境目標

望ましい環境像である「みんなで作る持続可能で快適な生活環境都市」を実現するために、以下の4つの環境目標を設定しました。

- I 地域の環境づくりにみんなで行くまち
- II さわやかな空気と水と緑のあふれる暮らしやすいまち
- III ごみを減量し資源の循環利用に取り組むまち
- IV 青い地球を次の世代につなぐまち

1. 地域の環境づくりにみんなで行くまち

地域の環境づくりには、市民、事業者、市の日常的な取り組みの積み重ねが重要です。市民意識調査によると、環境に対する行動では「買い物袋の持参」は、常に実行しているとの回答が9割を占めていますが、「生ごみの堆肥化」などは、今後も実行しないとの回答が3割あり、取り組みにばらつきが見られます。しかし、環境保全は、市民一人ひとりが出来ることから取り組むべきとの意見が最も多くなっており、市民の環境保全に関わる意識が高まっていることが分かります。何かの取り組みに協力・参加するのではなく、各自の意識を高め、自主的に実行する必要があります。

そこで、計画で最も重要なこととして、人を対象とした基本目標を定め、地域の環境づくりをみんなが自主的に取り組んでいくまちを目指します。

この環境目標の達成に必要なこととして、次の基本的な取り組みをあげます。

- 1.市民参加の推進と情報の共有化
- 2.環境教育と環境啓発の推進
- 3.環境保全活動の支援と育成

2. さわやかな空気と水と緑のあふれる暮らしやすいまち

今日、私たちの日常生活や事業活動は、少なからず環境へ負荷を与えており、それがごみ問題や身近な公害となっています。市役所へ寄せられる苦情を見ると、今や公害問題は、事業者対市民の問題ではなく、市民対市民の問題になりつつあります。日常のささいな行動が思いがけず生活環境の悪化を招くおそれがあることを自覚し、行動を見直す必要があります。一方で、水辺や緑などの都市環境の整備も快適な生活環境を守るための一つの要素となります。

そこで、基本目標の2つ目に、私たちの暮らすまちを快適に保つことを定め、汚れないさわやかな空気、水、そしてあちらこちらに緑がある快適なまちを目指します。

この環境目標の達成に必要なこととして、次の基本的な取り組みをあげます。

- 1.生活環境に対するマナーの強化
- 2.公害防止対策の推進
- 3.水辺と緑の整備
- 4.生物多様性の保全と持続可能な利用

3. ごみを減量し資源の循環利用に取り組むまち

各種リサイクル法が制定され、回収・リサイクルの体制が構築されたことや、ごみ減量「57運動^{コウナン}※¹」により、本市におけるごみの排出量は、近年減少していますが、ごみ減量が大切な課題であることに変わりありません。

ごみは、毎日私たちの暮らしの中から発生しています。現在、新ごみ処理施設建設に向けて、事業を進めていますが、新施設が完成するまでは、老朽化した江南丹羽環境管理組合（環境美化センター）の焼却施設を使うこととなります。また、最終処分場の確保は、全国的に困難な状況にあることから、現在の最終処分場をできる限り長い期間使うことが求められます。このため、ごみの排出を抑制することに加え、徹底的に資源を分別・回収・利用し、ごみとして処理される量を減らさなくてはなりません。一方で企業には、資源の有効利用を考慮した製品・サービスを開発・提供することが求められています。最近では、環境対策に積極的な企業を評価する動きが出てきており、この動きを支援することも必要です。

そこで、基本目標の3つ目に循環型社会の構築に関することを定め、市民、事業者、市が一体となって、ごみの減量化、資源の循環利用に取り組むまちを目指します。

この環境目標の達成に必要なこととして、次の基本的な取り組みをあげます。

- 1.ごみ減量化の推進
- 2.資源の循環利用の促進
- 3.ごみの適正な処理

4. 青い地球を次の世代につなぐまち

わが国では、平成2(1990)年以降、温室効果ガス排出量が増加していましたが、温暖化対策が進んだことや景気の低迷などにより、近年は温室効果ガス排出量が減ってきました。地球温暖化対策計画では、温室効果ガス排出量を平成42(2030)年までに平成25(2013)年から26%削減するという中期目標が定められ、取り組みが強化されるどころです。本市でも、引き続き温室効果ガスの排出削減に向けて一人ひとりの行動を見直し、青い地球を守るため低炭素社会の構築を目指す必要があります。そこで、基本目標の4つ目に、地球温暖化を始めとする地球環境問題への対策に関することを定め、一人ひとりが日常の行動を見直し、また、その思いをつないで、青い地球を守るまちを目指します。

この環境目標の達成に必要なこととして、次の基本的な取り組みをあげます。

- 1.低炭素社会に向けた活動の実践
- 2.新エネルギー、省エネ設備の普及促進
- 3.公共交通の充実と利用促進
- 4.フロン類対策の推進

※¹焼却場で処理するごみの量が急激に増加した平成9年度からスタートした運動で、平成8年度の市民1人1日当たりの焼却場で処理するごみの量の10%(概ね57g)の減量の目的と、江南市という名前にちなんでいる。

改訂版第二次江南市環境基本計画の体系

